

地域と協同の研究センター NEWS

2025年8月25日発行
252号

被爆戦後80年、平和がつながる年になるように何かできること

世界をみわたすとウクライナへの軍事侵攻は4年目を過ぎ、ガザ戦争では多くの民間人が飢え死んでいる。終わりが見えない。一方で、昨年末日本被団協がノーベル平和賞を受賞し、平和を願い、平和の大切さを伝え続けようとする動きも広がっている。それぞれ小さく見えても希望を感じるものだ。

平和行進を歩く高校生たち

静岡から愛知へ平和行進を引き継ぐと新所原から豊橋にある桜丘高校まで歩き歓迎を受ける。その桜丘高校は、教育機関で唯一「ヒロシマ原爆の



残り火」を保存し灯し続けている。今年は3人の高校生が歩いた。学校での平和委員会の活動に参加している高校生は、「これまで平和の大切さを学んできたつもりでしたが、そうした現実を生きてきた人たちと同じ道を歩いたことで言葉では表せない重みを感じた～これからも身近なところで自分にできることを考えていきたい」と語ってくれた。

豊橋空襲犠牲者を追悼し平和を誓うつどいの生徒会長の言葉

1945年6月19日夜半から20日未明にかけて米軍B29爆撃機136機が豊橋の街を襲い焼夷弾による攻撃を行い、市街地を焼き払った。



死者624人、被災者71502人もの惨禍であった。その集いには三河にある3つの高校からも参加された。桜丘高校の生徒会長の曾祖母は豊橋空襲と豊川空襲の体験者。戦争当時、桜丘高校の前身である女学校に在学し、豊川海軍工廠に勤労奉仕に行っていた。突然の空襲で逃げ惑い数十分のあいだに多くの女学生が死んだという。曾祖母は言う。「一回戦争をすると百年は消えんね。私たち戦争体験者が生きとる限り爪痕は残っているでね。だで戦争はいかんよ」と。

生徒会長は言う。「私たち高校生やこれから高校生になっていく世代は世界平和を学び、戦争のおそろしさを感じなければならない。語り継ぎ手となっていく必要がある。」

その言葉を、愛知大学名誉教授で東京大空襲の被災者であった高橋正先生はどんな思いで聞かれていたのだろう。



80年の節目に「沖縄での戦争、今の光と影をみつめ、未来へのメッセージを」の特別企画を予定

11月に、コープぎふ、あいち、みえ、東海の大学生協、南医療生協の職員が沖縄に行き、私たち生協、協同組合で働く職員が学び未来へのメッセージをまとめようと企画している。

10月11日(土)午後1時半から生協生活文化会館(名古屋市本山)にて結団式を予定している。高橋正先生には、冒頭で講演をお願いしている。そのときに思いを聞けるだろうか。

来年2026年2月21日(土)には報告会を予定している。

9月の日程

9月の日程				
3日(水) 三河地域懇談会		20日(土) 東海交流フォーラム実行委員会		
5日(金) 常任理事会		拡大理事懇談会		
6日(土) 友愛協同セミナー		27日(土) 被爆80年あいち平和のつどい		
16日(火) 名城大学人間学部 ボランティア入門①		生協職員マイスターコース②		
18日(木) 組合員理事ゼミナール⑥		30日(火) 名城大学人間学部 ボランティア入門②		
目次	被爆戦後80年、平和がつながる年になるように何かできること	1	情報クリップ	6
	協同で創る地域のつながり 難民支援と若者・社会の関わり	5	書籍紹介「コスタリカ」	8

私の記憶は3歳の終戦の日から始まります～富田祥子（とみたさちこ）さんに聞く

地域と協同の研究センターは、名古屋難民支援室とアジアボランティアネットワーク東海のみなさんと一緒に難民支援に取り組んでいる。富田さんはその企画のたびに食料や手作りのパンなどを持ってきてくれる。その富田さんがじつは3歳のときに、朝鮮半島、中国との国境近くから引き揚げてきたことを聞いた。いつも明るい笑顔の中には3歳のときの残像はないが、大切な記憶だと思い、お話を伺い、動画にまとめることにした。少し紹介したい。

富田さんは3歳のときに終戦を迎えた。茂山（むさん）という街に住んでいた。終戦から祖母と母と富田さんと妹の引き揚げが始まった。山の中を逃げるよう



にして、草を食べ、夜は動物におびえての引き揚げだった。3歳の子にとってつり橋を渡るのも怖くてお母さんに怒られながら渡ったと言う。泣いても助けてもらえないから、涙を見せない子になったという。季節が冬に変わってある街についたが、たった一枚の布団に4人が体を寄せあってしのいだ。多くの人が寒さで亡くなり、子どもは売られていったという。

日本に引き揚げたのは4歳になってから。「戦争で人権が侵される。子どもたちが不幸になる。子どもたちが普通のくらしをして、普通の子どもたちであってほしい。それが私の願い。そういう世界を作り上げていくために、一人ひとりの力は小さくても集まれば大きな力になっていくと思うので、微力でもやれることを続けていきたい」と語っていた。大事な内容なので別途動画にっていて、会員や他のみなさんに見てもらいたい。

豊川海軍工廠慰霊の日～前澤このみさんに聞く

前澤このみさんは、2025年にはじめて奥三河での平和行進を実現したメンバーのひとり。東栄町でご挨拶される姿はたくましい感じだが、小柄ですてきな女性だ。豊川海軍工廠は東洋一と言われ、海軍の機銃や弾丸、戦争に必要な光学機器などを製造していた。交代で5万人を超える人々が働いていた。その中には多くの中学生を含む動員学徒や女子挺身隊などもいた。新所原で歓迎してくれる桜丘高校の前身である桜ヶ丘高等女学校の生徒も勤労奉仕をしていた。そして8月7日、工場が稼働している時間を狙ってB29爆撃機の編隊が空襲した。終戦まであと1



週間という日である。突然の空襲で逃げ惑う人々、2500人以上の命、その数倍の人が怪我を負った。もう海軍の艦船もほとんどない中で武器や弾薬を作り続けたこと、鉄条網と堀に囲まれ逃げたくても逃げられない人がどれだけいたかと思うと辛くなる。前澤さんは、生協の活動に参加する中で、平和の尊さや活動の大切さを実感したという。ボランティア登録をして新城市から月に2～3回活動しているが、ほんの少しでもできることをして活動をつなげたいと言う。活動の中で若いボランティアも参加してくれるようになったのがうれしいと話してくれた。



三重県生協連主催「ヒロシマ・ナガサキ、沖縄から 男鹿和雄展 in MieMu」

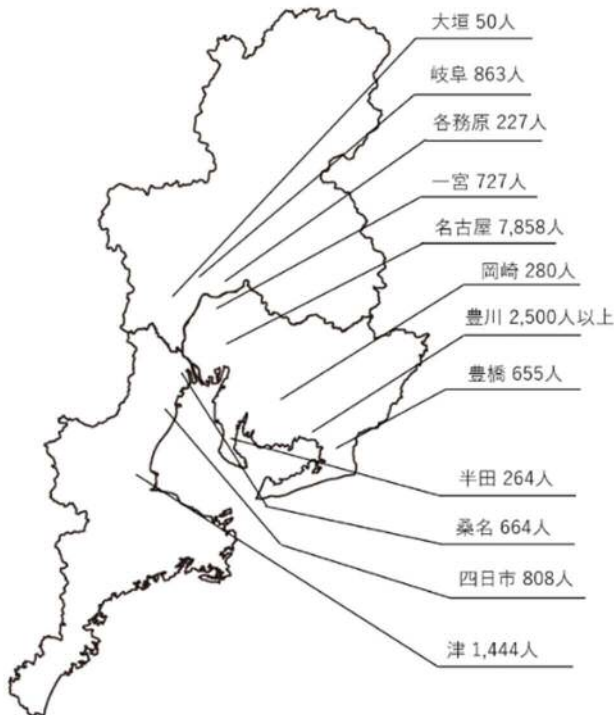
みなさんは男鹿和雄さんを知っているだろうか。「となりのトトロ」の美術監督だけでなく、吉永小百合さんの原爆詩朗読会「第二楽章」や野坂昭如さんの戦争童話集「ウミガメと少年」などの挿画もされている。三重県生協連で、被爆戦後80年、国際協同組合年の年に津市にあるMieMu（三重県総合博物館）で男鹿和雄展を開催していると聞いて、8月2日の土曜日に訪問した。命の尊さと平和への祈りが込められている。事務局の橋本直行さんにお話を伺った。こ



れまでの取り組みと違い、戦争の歴史を考えてもらううえで、このやわらかいタッチの絵は受け入れやすく、平和の願いをつなぎ続けるうえで、新たな出発点に立てたのではないかとのこと。水爆実験で被爆した第5福竜丸の絵も何点か展示してあった。なぜかと聞くと、三重県との縁を話してもらえた。建造70年の古希を記念して描かれたものだ。第5福竜丸は木造船だが、三重県熊野の木を使っているという。そして、エンジンは廃船時に貨物船に搭載されたが三重県熊野沖で沈没したという。平和の取り組みは人がつないでいくのだと実感した日だった。



岐阜空襲の地をたずねて



太平洋戦争での日本本土への空襲で原爆を含め数十万から百万人が死亡した。東海三県でも大きな被害、死者を出した。2万人近い人が亡くなっている。ただし、この数字には、豊川海軍工廠で空襲にあった人たちは入っていない。軍属扱いだからだそうだ。学徒や女子挺身隊もその中に入る。岐阜空襲は名古屋などの軍需工場が集積する大都市のあと空襲の目標とされた。7月9日の夜だった。約900人の方が亡くなっている。

コープぎふの職員の方に紹介してもらい、岐阜空襲の傷跡を巡った。金色の織田信長像がある岐阜駅。その一角に岐阜市平和資料室があった。岐阜市役所の4階には平和の鐘を設置し、平和都市宣言もされている。風化させまいという決意を感じた。戦跡を巡って感じたのは、

空襲で焼け焦げたり、抉られたりした木、焼け残った建物や石灯籠でさえ戦争の悲惨さを伝えており、人として平和の大切さをより一層つなげなければという気持ちになった。

会員のみなさんと戦跡巡りをされた方もいるだろう。被爆戦後80年の年にもう一度巡ってみてはどうだろうか。はじめての人もいるだろう。巡って感じた思いを投稿してもらえないだろうか。



岐阜駅にある岐阜市平和資料室



美江寺観音の空襲で亀裂の入った石灯籠



岐阜市役所4階にある平和の鐘

各務原空襲の地をたずねて

各務原では13回の空襲があった。飛行場を中心とした航空機産業、航空技術者教育が盛んな町だった。岐阜空襲は焼夷弾で町を焼き尽くす無差別爆撃だったが、各務原は大型爆弾での精密攻撃が主だった。227人が亡くなった。岐阜は当時の防空法で火を消すことを優先するよう命令されていたが焼夷弾の猛威に対抗できず、多くの方が亡くなった。各務原では死守から遠隔退避に変更されたことで、被害が相対的に少なかった。

終戦後、GHQは日本の再軍備を防ぐため軍の解体、軍需産業の停止を命じたが、1950年



民間で作られたと思われる慰霊碑

の朝鮮戦争が始まって、その2年後航空機産業の再開が認められ各務原の航空機産業は第二の誕生を迎える。各務原の航空機産業が今の光であるならば、暗い影の部分も見つめなおす必要がある。それが平和を未来に



空襲で焼けたキササゲ



戦闘機などを隠すために作られた長根山掩体壕
今は民間企業が倉庫にしている

伝えていくことになると思う。感想めいた内容になってしまったが、これからも丁寧に活動をしていきたい。

みんなおいでよ ワークスでコープ トークイベント開催

7月18日に豊田市の保見交流館大会議室で、地域と協同の研究センターも参加して作る「トークイベント実行委員会」主催で開催した。

みなさんは、労働者協同組合とはなにか知っていますか。「労働者協同組合とは何か」の著者である松本典子先生は、「そこで働く人々が所有し、管理する協同組合である。地域の人々が組合員になり、共に働きながら地域課題の解決を目指している。」としている。トークイベントでは、4組の活動から、課題や可能性を探った。



吉村迅翔さんは、一般社団法人J UNTOSを作って活動。学生時代に保見団地でボランティアをしたのがきっかけ。住民の6割近くが外国人だという。治安や騒音について懸念の声もあったが、実際行ってみると、全然違ったという。小学生を対象に土曜日教室を開催しているが、団地のゴミ拾いや社会見学などしている。子どもから大人まで居場所となるフリースペースJ UNTOS



J AM、大人向けの日本語教室「ほみのわクラス」、地域イベントにも参加して多彩だ。吉村さんが言う多文化共生とは「隣にいるひとを大切に思うこと、そしてそのひとを知ろうとすること」、みんなで一緒に考え、縦でも横でもない斜めの関係が大切とのことだった。

終了後、吉村さんの恩師である斉藤尚文先生と一緒に保見団地を案内してくれた。その様子は、別途動画で紹介したい。インスタも見てほしい。

近藤隆さんは、八名をよくする会で活動している。偶然？8名のメンバーとのこと。Aコープ跡地で朝市を開始し、その後産直市場、フリーマーケット、配食サービスなど活動を広げてきた。2026年春にその旧Aコープ八名支店が国道の拡幅工事の影響で撤去されることになり、広げてきた活動、新しい挑戦目標などをこれからどうしようと考えている。「稼げる地域貢献活動」がしたい、信頼信用を確保するため法人化したいと模索されている。

CooperAtivaTsuyaku 労働者協同組合を作ろうと勉強会から始め準備をされている luzia Furuya さん。瀬戸菱野団地で活動しているチームKOREKARAさんからも報告があった。

松本典子先生からは、形よりも何をしたいか、誰としたいかということが大切であり、それを日々考え続けることが労働者協同組合ということだった。

尾張地域懇談会が高蔵寺ニュータウンでフィールドワーク

少し時間が経ちましたが、6月23日（月）に尾張地域懇談会でフィールドワークを実施した。高蔵寺ニュータウンは、1968年に入居が開始された日本で二番目に古い大規模ニュータウンだ。高齢化が著しいが一方で新しい開発や、廃校を利用した街づくりの取り組みも盛んだ。研究センター総会の田中先生の記念講演では、買い物の協同からケアの協同へ、小さな協同がキーワードになったが、それを象徴する生協運動を支えた大規模団地だ。まずは、高蔵寺NT店の会



議室で、くらしすけあいの会のお話を聞いた。案内をしてもらい、高蔵寺ニュータウンの様子、廃校を利用し0歳から100歳まで集う多世代交流施設となった「グルッポふじとう」、バスに乗って買い物に行くにも大変という人に向けた「移動スーパーマーケット道風くん」などを紹介してもらった。

高蔵寺NTのお店ではなつかしい生協の組合員理事さんにもお会いできた。嬉しかった。



9月20日に拡大理事懇談会を開催します、午前はフォーラム実行委員会

地域と協同の研究センターは30周年となり、総会で新しい中計も確認。議論の中で関心が高い食とくらしというテーマで拡大理事懇談会を開催するこ

とに。名古屋大学名誉教授の竹谷先生とコープあいちの森理事長にパネラーになっていただく予定。その様子はニュースなどでお知らせします。

(文責 こまいよしあき)

協同で創る地域のつながり 難民支援と若者・社会の関わり

地域での難民支援や社会参画の取り組みは、目に見えない小さなつながりや、誰かと支え合う「協同」の力に支えられています。私自身も、7月9日の公開シンポジウムや8月13日のパネルディスカッションで、難民や若者、協同組合の実践から届く声に触れ、学びと気づきを得ました。その場で交わされた一つひとつのやりとりが、地域での支え合いのかたちを教えてください。今回は、その一端をご紹介します。

7月9日公開シンポジウム「For Refugees, With Refugees 地域と難民、そして私たち」共催名古屋難民支援室・日本国際交流センター・ジャパンプラットフォーム

難民として壇上に立ったのは、2年前に「難民食料支援 学び語り合う会」に参加した経験を持つ方でした。かつて受け取った手紙を紹介し「このメッセージには、いつも励まされています」と語られました。今も冷蔵庫に貼って毎日目に入る場所に置き、落ち込むときもこの手紙を見ると元気が出るそうです。直接会うことはない、でも同じ地域に暮らす人同士が、手紙を通じて、確かにつながり、励ましあう関係性が存在することに胸が熱くなりました。シンポジウム終了後、参加された高校生の皆さんに、難民の方と話しかけてみました。桜丘高校の演劇部5名の皆さんは、戦争をテーマにした舞台公演を控えており、平和について学びたいと豊橋から名古屋の会場へ来ていました。難民について、意見交換や質問が交わされた後、難民の方が履いている「靴下かわいい!」と高校生らしい会話も飛び出しました。私たちが向き合うテーマは大きいですが、こうした交流の場が学びと共感を生むことを実感しました。今後も、このような「つながる場」を創出していきたいと思いました。

8月13日パネルディスカッション「難民の再定住と社会統合：移動する女性と女の子の保護とエンパワーメント」主催カナダ大使館

カナダ大使館主催のパネルディスカッションには、シリア、バングラデシュ、ミャンマー出身の3人の若い難民背景のある女性たちが登壇。そのうち2人はロボコープのメンバーでした。来日までの経緯や経験、女性という理由で直面した壁、そしてそれを人とのつながりや励まし、支え合い、時には連帯して乗り越えてきた体験を語られました。

モデレーターは、カナダで3つ目に大きいチョコレート会社を経営、映画「ピースパイ

神田すみれ（地域と協同の研究センター研究員）「チョコレート」で知られるシリア難民のタレク・ハダドさん。「皆さん、日本にいる難民の方達へSNSで「Welcome to Japan ようこそ日本へ」とメッセージを投稿してください。」「地域に暮らす難民のメンター・相談役になってください。」「難民を雇用してください。」「と私たちにできることを呼びかけました。

ロボコープ創設者は在日コリアン3世の金辰泰さん。金さんになぜ協同組合かと話を伺いました。労働者協同組合法が成立する1年前に法人化されたため、一般社団で法人化



一般社団法人 Robo

し、運営は「一人一票」「組合員による出資」という協同組合の原則に基づいて運営されているそうです。「これからは協同組合だ」と、今後の方針について強い思いを話してくださいました。ロボコープは難民の女性たちが中心メンバーとして運営しており、1人親をはじめ、就労に困難を抱えやすい人々の雇用を生み出しています。これからも部門を増やし、スペインのモンドラゴン協同組合との連携も進めているそうです。

協同の力で学び合い、支え合う

今回のシンポジウムとパネルディスカッションを通じて感じたのは、難民支援や社会参画は一方方向ではなく、互いの学びや励ましを通じて支え合う協同の営みであるということです。直接会う機会がなくても、地域での小さなつながりや交流が、長く心に残る支えとなる。難民の経験や若者の学び、協同組合の実践が交わる場は、私たちにとっても大きな学びとなりました。これからも多様な人々がつながり、学び合い、支え合える場を創出していきたいと思います。次回の「難民食料支援学び語り合う会」は10月19日午前に開催します。ぜひご参加ください。



公開シンポジウム

映画『ピースパイ
チョコレート』
ホームページ

(かんだ すみれ)

情報クリップ

co-op navi 2025. 8 No. 879

平和の大切さを継承していく生協の取り組み

日本生活協同組合連合会 2025 年 8 月 A 4 判 32 頁 363 円（消費税込）

＜私たちの「この一枚」＞ コープしが
琵琶湖を大切にしている取り組み「びわ湖清掃ウォーク」
組織広報部 広報スタッフ 白井沙季

特集

平和の大切さを継承していく生協の取り組み

＜今日も笑顔のコープさん＞ とくしま生協

＜想いをかたちに コープ商品＞

CO・OP野菜たっぷり和風ドレッシング
(カロリーハーフ)

＜生協大好きママコプ山さんの 教えて! CO・OP商品＞

CO・OPミニワッフルドッグ (チーズ)

＜2025 国際協同組合年＞

(ICY2025) を知る

＜組合員に支持される店づくり・売場づくり＞

コープかがわ

＜日本全国宅配現場におじゃまします＞

コープさっぽろ

＜本田よう一のいつもの台所＞

＜生協のDE&I 多様性のある職場をつくろう＞

コープこうべ

＜この人に聴きたい＞

NPO 法人ねりまねこ 副理事長 亀山嘉代さん

＜ほっと navi＞

青森県庁消費生協 / パルシステム連合会

生活協同組合研究 2025. 8 VOL. 595

社会的課題解決に取り組む次世代リーダーたち

公益財団法人 生協総合研究所 2025 年 8 月 B5 判 72 頁 定価 550 円（消費税込）

巻頭言

いっそ女性総理を！？ー男女雇用機会均等法から 40 年ー
岩田三代

特集 社会的課題解決に取り組む次世代リーダーたち

不登校・精神障害・ひきこもり・虐待。さまざまな背景を持つ若者が、楽しみながら多くの人を救い、救われ続ける「ごちゃまぜ地域」の未来 濱野将行
若い世代が声をあげ、その声が響く社会をつくるために 足立あゆみ

制度はあるのになぜ届かないのか

ー日本の社会保障制度が抱える構造的課題への実践ー
横山北斗

社会課題を“自分ごと”に変える、生協学生委員会の力
戸張 桜

どのように行動すると社会は変わるのか？

ーコミュニティ・オーガナイズの視点から考える
鎌田華乃子

社会を変える若手リーダー（＝社会イノベーター）を
地域や社会で促進するためには 西出優子

■IYC2025 の機会に協同組合の価値を再考する（第 5 回）

近隣組織と協力して子どもの成長を支援する

出雲医療生活協同組合「学 VIVA」 山崎由希子

■国際協同組合運動史（第 41 回）

1966 年第 23 回ウィーン ICA 大会② 鈴木 岳

■本誌特集を読んで（2025・6） 加瀬和美・石井勇人

●新刊紹介

岩田正美著『私たちの社会福祉は可能か』 山崎由希子

●公開研究会

「証言による戦時下と敗戦後のくらし」（8/27）

アジア生協協力基金活動報告会（9/19）

●全国研究集会

超高齢社会において生協が果たすべき役割を考える

(11/21)

文化連情報 2025. 8 No. 569

語り継がれる農民兵士の手紙

日本文化厚生農業協同組合連合会 2025 年 8 月 B5 判 80 頁 文化連情報編集部 03-3370-2529 *注

農協組合長インタビュー（106） えちご上越農協

農家が再生産可能で持続できる農業に 羽深真一

厳しい情勢の中、会員の利用結集を力に協同で経営改革
を推進 文化連「令和 6 年度事業報告」の概要 伊藤幸夫

「見て、聞いて、体験 協同組合フェスティバル」が開
催されました！

院長インタビュー (358) 茨城西南医療センター病院
 関東平野の中心で三次医療を担う多職種横断で
 人材・組織開発に力 上杉雅文
戦後 80 年 紡がれた平和への祈り (最終回)
 語り継がれる農民兵士の手紙 斎藤彰吾・高橋源英
改正基本法・新基本計画下の初の農業白書

薬価制度、医薬品流通の現状と問題点 (3)
 廉価購入と使用対策・適正使用による収支改善を
 「共同購入ビジョン」で実践 佐治 実
協同精神のリレー (29)
 リレーゾーンのバトン 伊藤澄一
二木教授の医療時評 (234)
 「骨太方針 2025」の医療・社会保障改革方針の複眼的検討
 二木 立

農高生と地域を作る
 ～我はいかにして農業高校教員となりしか～ (7)

社会運動 2025. 7 No. 459

生産する消費者が時代を変える 物価高に抗する

一般社団法人 市民セクター政策機構 2025 年 7 月 A5 判 128 頁 本体価格 1,100 円 (消費税込)

FOR READERS

「より良い別の世界」は可能か

・part 1 消費者の可能性を考える

対談 食のビジョンを描く

こめや食品株式会社 代表取締役 川崎光一郎
 生活クラブ生活協同組合・東京 副理事長 豊崎知津美
食と農の関わりに生協が果たせる役割
 日本生活協同組合連合会 専務理事 二村睦子
変わる「消費者」の意味と社会との関係
 北海道大学大学院経済学研究院 准教授 満 蘭 勇
フェアトレードと産消提携の社会的連帯経済の度合
 京都大学大学院農学研究科 教授 辻村英之

・part 2 生産者の現在を見ていく

牛乳パクパク ACTION ツアールボ

地域の生産者が連帯して安全な鶏を育てる

株式会社秋川牧園 代表取締役社長 秋川 正
国産原料のトマトケチャップを作り続けたい
 コーミ株式会社 代表取締役社長 川澄亮太

データで見る農業高校の現状① 橋本 智
「医工連携」が拓く医療技術イノベーション (13) 最終回
 新医療機器の審査と医療レギュラトリーサイエンス
 梅津光生

病院広報アワード 2025

足助病院の小林真哉病院長が優秀賞

臨床倫理メディエーション (83)

「医療崩壊」の言葉の変遷とその意味

松岡洋子

デンマーク & 世界の地域居住 (192)

新しいサービス提供とコミュニティの拠点づくりを目指すネコサボ事業 (ヤマト運輸株式会社)

松岡洋子

口書籍紹介

不確実な時代を生きる 武器としての憲法入門

▶線路は続く (199) 敦賀港駅の記憶 / 西出健史

▶最近見た映画 罪人たち / 菅原育子

・小特集 韓国の協同組合と出会う

生活クラブと韓国協同組合の交流

檀園信用協同組合・常任監査 朱 寧惠

京畿道議会政策支援官 崔 泯竟

韓国の社会的協同組合のいま ④

青年希望ファクトリー社会的協同組合

株式会社異路 (IRO) 代表取締役 上前万由子

書評 『労働者協同組合とは何か』

藤井恵理

『ええかげん論』

石井清美

連載 客員研究員コラム

ボトムアップ民主主義の時代 第 6 回

ポピュリズムにどう向き合えばよいのか

政治学者 岡田一郎

ネット最前線・観測記 ⑨

「高校野球」と人権/差別、大人たちの責任は？

外国人入国法連絡会事務局次長 瀧 大知

韓国の社会的経済と政治 第 12 回

弾劾後の韓国 市民が導く民主主義そして社会的連帯経済

京畿道議会政策支援官 崔 泯竟

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(※)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお問い合わせください。

書籍紹介

地域と協同の研究センター 熊崎辰広会員からの書籍紹介

コスタリカ 『純粋な人生』と言いつつ平和・環境・人権の先進国

著者：伊藤千尋 出版社：高文研 発売日 2023年3月 価格 1800円＋税



全国の九条の碑を取材されている伊藤千尋さん、国際ジャーナリストでもある彼の著書に「コスタリカ」がある。コスタリカは南北アメリカ大陸の架橋の位置にある国、面積は九州と四国を合わせたほどで、人口 515 万人 (2021 年)。1949 年に制定された憲法の 12 条は「常設の組織としての軍隊は禁止する」。として今日まで非武装を貫いている。何故、紛争の多い地域で可能であったか。じつはその事を、直接伊藤さんに、岐阜での懇談会の場で質問した。その回答として「平和の出発点は個人だ。自分との平和、他人との平和、自然との平和、の三つの平和を幼稚園の時から教える。平和で大切なのは自分自身の平和をどう築くかで、自分が抱えている問題をポジティブに解決することがすべての平和の出発点」と発言された。ここで思い出したのはユネスコ憲章の前文にある言葉「戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」。ずっとその意味を理解できなくて(学生時代にユネスコ学生サークルに参加)、この言葉で初めて理解できたのである。平和のためにコスタリカは教育に力をいれている。幼いころから憲法と民主主義をまなぶ。独立した憲法裁判所と民主主義の日が制定されている。高校生が大統領を憲法違反として訴えて勝訴したり、政府の原発建設の方針が、裁判で否定されたりしている。使われているエネルギーは 100% 自然エネルギーである。そして学費や医療費は基本的に無償であり、外国人にも提供される。それが可能なのは軍事費のかわりに教育費等に使われているからである。しかしコスタリカは裕福な国ではない。貧困率が高い。

日本では戦前、軍国主義教育の下、多くの軍国少年少女を作り出した。それが戦争の遂行を容易にしたのである。日本はコスタリカと真逆である。必要な民生用の予算を減らし軍事費に計上されて、日々のくらしと平和を圧迫している。コスタリカに学ばなければならないのである。(くまざき・たつひろ)

地域と協同の研究センターの情報 下記 QR コードからご覧ください。

ホームページ



facebook



インスタグラム



<事務局より>

みなさま、戦後 80 年の暑い夏をいかがお過ごしになったでしょうか。第 252 号は平和特集といたしました。感想や、みなさまの平和への想いをぜひお寄せください。ご家族のエピソードや、戦争体験などもご紹介いただければ幸いです。戦跡など取材先や地元の情報もお知らせください。今年度の研究センターの平和の活動に活かしてまいります。以下のリンクからお願いいたします。<https://forms.gle/SrSmId975ZVQqAwV8>

研究センター 8 月活動の報告

5 日 (火) 常任理事会

8 日 (金) 三河地域懇談会 ひまわり農協 今泉秀哉さんを囲んで

19 日 (火) 地域福祉を支える市民協同

29 日 (金) 研究組織交流会

30 日 (土) 水野隼人さん お別れの会

マイスターコース第 2 回



※この研究センターNEWS はメールでデータ配信を行っています。画像や図などをカラーでご覧いただけます。ご希望の方は下記メールあて、お名前、配信先のメールアドレスをお知らせください。タイトルに「研究センターNEWS データ配信希望」とご入力ください。

※企画は様々な事情で中止・延期・オンライン参加のみとなることがあります。参加の前にホームページ等でご確認ください。

地域と協同の研究センターNEWS 第 252 号

発行日 2025 年 8 月 25 日 定価 200 円 (税・送料込み)

年会費には購読料が含まれています

発行 特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター 代表理事 森 政広

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通 1-3-9 TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>